



復元
江戸時代の
きもの

いとむかしの職人技

2009

目次

ごあいさつ	3
河上繁樹	
「江戸時代の小袖に関する復元的研究」について	4
河上繁樹	
江戸時代前期の小袖 ー寛文小袖から友禅染へー	8
高木香奈子	
年表	12
図版／解説 復元小袖	14
江戸時代の小袖裂	32
織りと染めの技法	40
江戸時代の染色技法に関する文献資料	45
作品リスト／参考文献	47

凡例

- ・本図録は、関西学院大学博物館開設準備室で開催される「復元 江戸時代のきもの いまとむかしの職人技」の図録である。
- ・出品作品はすべて関西学院大学の所蔵である。
- ・図版頁の作品名称の表記は、作品番号、作品名称、時代、地質、染色技法の順に記した。
- ・作品番号は展示会場の作品番号と一致するが、陳列順序とは必ずしも一致しない。
- ・本書の編集及び構成は、河上繁樹（関西学院大学文学部教授）と高木香奈子（関西学院大学大学院文学研究科）が担当した。
- ・図録解説と年表は高木香奈子が執筆した。
- ・写真撮影は、深井純（博物館開設準備室教育技術主事）、井上美香（映像プロダクション KIP）が担当し、高木香奈子、中川未恵（関西学院大学大学院文学研究科）、宇野奈保（関西学院大学大学院文学研究科）、西村佳乃子（関西学院大学大学院文学研究科）が補助した。

ごあいさつ

関西学院大学博物館開設準備室長 河上繁樹

関西学院大学は2014年の創立125周年を記念して、関学のシンボルである時計台を大学博物館として開館する準備を進めています。大学がなぜ博物館を必要とするのでしょうか。古くなったものや役に立たなくなったものを喩えて「博物館行き」などと言ったりします。確かに博物館には、古いものやお役御免になったようなものが展示されていることがあります。でも、それがほんとうに価値のないものなのでしょうか。

博物館法によれば、博物館は次のような目的を行う機関と定義づけられています。

- (1) 歴史、美術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮のもとに観覧者の利用に供する。
- (2) 観覧者の教養、調査研究、レクリエーション等に資するための事業を行う。
- (3) 資料に関する調査研究をする。

このように博物館は、さまざまな分野を対象とし、その事業内容も幅広く、決して古くなったものや役に立たなくなったものを陳列しているわけではありません。一見、そのように見えても、そこに人間とモノとの関係を探り、科学や文化などの多様な価値を見いだせるように情報を発信することが博物館の仕事です。

知の探求の場である大学では、多彩な研究がなされています。関学の博物館はそのような研究の成果を広く紹介する情報発信の場でありたいと考えています。今回の展覧会は、関西学院大学アート・インスティテュートが取り組んできた「江戸時代の小袖に関する復元的研究」と題する研究プロジェクトを紹介します。



4 賀茂競馬模様小袖

(2008年復元)

縮緬地 絞り染 引き染 友禅染 刺繍

京都国立博物館所蔵の「賀茂競馬模様小袖」(京博本)を手本に復元小袖を制作した。この小袖は類似の様子が享保9年(1724)刊行の『当流模様雛形鶴の声』に収録されており、作期はこの頃と考えられる。左の袖下から右の袖口にかけて紅の絞り染で石畳模様を表し、その下に楓の樹のもとを駆け抜ける二頭の馬が描かれる。この模様は京都の上賀茂神社で毎年5月5日に行われる神事「競馬」をあらわしたものである。賀茂の競馬は、スタート地点に「馬出の桜」、ゴールに「勝負の楓」が目印として植えられており、「賀茂競馬模様小袖」の後ろ身頃に描かれた楓の様子はゴールの場面をあらわしたものとみられる。



6 網干に葵模様小袖裂

(江戸時代 17世紀)

編子地 鹿子絞り 刺繍

左下から右上に勢いよく立ち上がる網干と葵の花葉を表す。網干は藍と紅の鹿子で網目を結い分け、その頂きに金糸駒織で角のような枝を表す。このような意匠は寛文小袖の代表的な作品として知られる「波鷺鴛模様小袖」(東京国立博物館蔵)にも見られ、寛文期の小袖によく用いられたのであろう。葵葉には藍、紅、黄返しの藍、紫といった種々の鹿子絞りが施され、このように鹿子絞りを多用する様子は雁金屋の衣裳図案帳にもみられる。特に紫鹿子は絞りの鹿子としては遺品が少ないが、万治4年(1661)の衣裳図案帳(大阪市美術館蔵)に「むらさきかのこ」の例がみられることも注目される。

本小袖裂は中央に縦一直線の縫合がなされており、一片の幅が約36cmであることから、もとは小袖の背の一部であったと考えられる。小袖全体の模様は不明ながら、十分な余白をとる構図ならびに丁寧な鹿子絞りなどから、寛文期頃の小袖の断片とみられる。

出品リスト

復元小袖

1	波に網目模様小袖	1 領	丈 155.7×衿 64.5 (単位 : cm)
2	鳥兜模様小袖	1 領	丈 155.0×衿 59.9
3	貝返し模様小袖	1 領	丈 161.0×衿 62.3
4	賀茂競馬模様小袖	1 領	丈 156.0×衿 63.4

江戸時代の小袖裂

5	唐松模様小袖裂	1 枚	縦 60.4×横 36.2
6	網干に葵模様小袖裂	1 枚	縦 57.9×横 72.8
7	鉄線花模様小袖裂	1 枚	縦 63.0×横 32.1
8	文字に梅模様小袖裂	1 枚	縦 72.0×横 31.0
9	菊に竹模様小袖裂	1 枚	縦 84.7×横 26.8
10	笹に桐模様小袖裂	1 枚	縦 105.0×横 38.0
11	菊に萩模様小袖裂	1 枚	縦 87.6×横 28.4
12	据え鷹模様小袖裂	1 枚	縦 106.8×横 32.3

主な参考文献

《単行書》

- ・後藤捷一 山川隆平編『染料植物譜』はくおう社 1972年
- ・上野佐江子編『小袖模様雛形本集成』学習研究社 1974年
- ・小笠原小枝『染と織の鑑賞基礎知識』至文堂 1998年
- ・河上繁樹 藤井健三『織りと染めの歴史－日本編』昭和堂 1999年
- ・美術フォーラム刊行会『美術フォーラム 21』Vol. 15 醍醐書房 2007年
- ・丸山伸彦『日本ビジュアル生活史 江戸のきものと衣生活』小学館 2007年
- ・丸山伸彦『江戸モードの誕生－文様の流行とスター絵師－』角川学芸出版 2008年

《展覧会図録》

- ・『花洛のモード』京都国立博物館 1999年
- ・『千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風～』京都文化博物館 2005年
- ・『KIMONO 小袖にみる華・デザインの世界』女子美術大学 2006年
- ・『初公開 松坂屋京都染織参考館の名品 小袖 江戸のオートクチュール』日本経済新聞社 2008年
- ・『秋季特別展 日本の刺繍－飛鳥時代から江戸時代まで－』徳川美術館 1998年
- ・『企画展示 [染] と [織] の肖像－日本と韓国・守り伝えられた染織品』国立歴史民族博物館 2008年

《報告書》

- ・『江戸時代の小袖に関する復元的研究』（平成 15 年度選定私立大学学術研究高度化推進事業「産学連携研究推進事業」中間報告書）関西学院大学アート・インスティテュート 2006年
- ・『江戸時代の小袖に関する復元的研究』（平成 15 年度～19 年度私立大学学術研究高度化推進事業「産学連携研究推進事業」研究報告書）関西学院大学アート・インスティテュート 2008年

復元 江戸時代のきもの いまとむかしの職人技

2009年5月19日

編集・発行：関西学院大学博物館開設準備室
〒662-8501
西宮市上ヶ原一番町 1-155

印刷・製本 協和印刷株式会社

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
MUSEUM PLANNING OFFICE 2009